

前回述べたような経緯でセンターに2002年の5月に  
出向した。センターでは求職  
者と求人企業のマッチングが  
主要業務であったが、センタ  
ーのトップである所長（ハロ  
ーワークの所長経験者）の主  
導で、転職促進のために転職

## ナビゲーター

者に対する2日間のセミナー  
（再就職支援セミナー）を、  
全国のセンターに先駆けて実  
施したいと言われた。当時セ  
ンターには企業からの出向者  
が10数名いたが、人事労務の  
経験があり産業カウンセラー  
の有資格者は私一人であっ  
た。そのため、所長からセミ

# 産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 48

ナーの企画、内容の決定、運  
営を任せられ、セミナーでは自  
ら講師も務めた。一方、転職  
予定の求職者のカウンセリング  
がや、各種情報提供にも努め  
た。

2003年になって厚生労  
働省（厚労省）が企業間の労働  
移動をさらに促進するため、  
「キャリアコンサルタント5  
万人養成計画」（5万人養成  
計画）を打ち出した。それで、  
私が産業カウンセラーの資格  
を取得した「日本産業カウンセ  
ラー協会」など数機関に対  
して、厚労省が定めた研修を  
行ない試験に合格した者に、

## 産業カウンセラーとの出会い (2)

キャリアコンサルタントとい  
う資格を付与することになっ  
た。私は認可された最初の年  
に資格を取得したが、5万人  
養成計画について、「なぜ5  
万人なのか」、「キャリアコ  
ンサルタントをいつたい、学  
校・企業・ハローワークなど、  
必要とするとの機関に何人配  
置するのか」という疑問が頭  
から離れなかった。5万人の  
根拠を調べるために新聞や各  
種情報にあたったが、根拠を  
示す情報はどこにもなかつ  
た。キャリアコンサルタント  
に関する各種学会の発行して  
いる資料にも5万人の根拠は

なかった。

上記のように5万人の根拠  
が不明であり、これは自分で  
調べるしかないと思い、当時  
多くの社会人が通い始めた  
「社会人大学院」に入学する  
ことを決意した。たまたま私  
の卒業した大学が日本では  
最初に社会人大学院を198  
9年に創立、そこはMBAの  
資格取得が目的ではなく、自  
分の調べたいテーマを大学  
の先生や講義、書籍という知  
的資源を使って究めるとい  
うものであった。大学院の内  
容は私のニーズにピッタリと  
思い応募、幸いにも合格した

が、当時私は56歳で30年ぶり  
の大学院通い、同期生20名の中  
では最高齢、そして指導教官  
よりも10歳も年上であった。  
当時は現役であったので授  
業は夜間と土日の講義に出席  
した。

修士論文のタイトルは「キ  
ャリア・コンサルタントの養  
成と配置の研究〜その必要数  
とカリキュラム・活用方法〜」  
で、キャリアコンサルタント  
の必要数は84500人と結  
論付けた。現在、厚労省は  
「キャリアコンサルタント10  
万人計画」を打ち出している  
が、この論文完成時点（20

05年）で5万人では不足す  
ると提言したことは一つの成  
果であると自負している。  
この論文では結論として、  
キャリアコンサルタントを行  
なうものは「キャリアコンサ  
ルタント」資格を保有してい  
るべきと主張した。これも、  
2016年にキャリアコンサ  
ルタントが国家資格化、名称  
独占になり、資格がなければ  
「キャリアコンサルタント」  
あるいはそれと類似した名称  
は使用できないことになった  
ことに先行して、キャリアコ  
ンサルタントの位置づけを明  
確にしたと自負している。

【社会保険労務士・中小企  
業診断士・産業カウンセラー  
杉本和夫】  
（火曜日掲載）

# キャリアコンサルタント5万人計画と大学院へ

